

「令和6年度 茨城県地球温暖化対策実行計画推進委員会」 審議要旨

- 1 日 時 令和6年8月23日（金） 10:00～12:00
- 2 場 所 茨城県庁12階 県民生活環境部会議室（WEB会議）
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 結 果

概 要

議事について、委員より次のとおりご意見をいただいた。

議事1 2021年度（令和2年度）温室効果ガスの排出量

委員からの意見

- ・ 排出量の増減要因について、確定的要因と確定しきれない要因を分けて整理されたい。
- ・ 運輸部門からの排出量は、コロナウイルス感染症拡大前の2019年度と比較しても大きく減少しており、引続き環境にやさしい自動車の普及や公共交通機関の利用促進に努められたい。

議事2 県の施策の進捗状況について

委員からの意見

(1) 施策の取組目標について

- ・ 既に目標値を達成しているような指標もあるが、今後、コロナ禍からの経済の復調による排出量の増加や温暖化の進行が予想されるなか、既存の指標に拘らず、指標自体の見直しや上乘せについて適宜検討されたい。
- ・ 企業に対し、省エネに取り組んだ結果を定量化したデータを提出させるなど、具体的な取組効果の把握も必要。
- ・ 施策が温暖化や気候変動にどう影響したか評価できるよう資料を工夫されたい。

(2) 産業部門について

- ・ 新たな指標として、ライフサイクルアセスメントという観点で排出削減に取り組んでいる事業所数に目標値を設定することを検討されたい。

(3) 業務部門について

- ・ 大企業に対して Scope3 の排出削減をいばらきエコ事業所の登録要件として求めるとともに、中小企業に対しては脱炭素経営に取り組まないことで発生するリスクの周知により意識醸成や普及啓発にも取り組まれたい。
- ・ 中小企業事業者等に対してもライフサイクルCO₂の削減の取組がどれくらい行われているか調査することを検討されたい。
- ・ 建築物においても、使用時だけでなく建築や解体で発生するCO₂を含めて排出量削減に取り組む方向に進んでおり、ライフサイクル全体で排出削減を考えるという視点も今後の取組を検討する際には考慮されたい。

(4) 家庭部門について

- ・ 住宅向けの蓄電池導入支援事業について、消費者に対し工務店やハウスメーカーからも案内してもらえよう働きかけるなど、消費者が情報を得やすくなる工夫されたい

(5) 運輸部門について

- ・ 運輸業界で現状特に問題となっているのがドライバー不足であり、ドライバーの継続雇用ができるような支援も必要。
- ・ 運輸部門では旅客よりも物流からの排出量が多い一方で、現在は運行本数を減らすことが難しい状況にあることから、水素燃料電車などの環境負荷が少ない次世代自動車の導入を支援するような施策や、雪や台風などの天候による配達遅延が許容されるように県民の意識を変えて行く取組も必要。
- ・ EV 普及に向けては、充電インフラの充実と併せてその位置をアプリや地図で県民に情報提供することが必要であり、県でスタンド数の調査をすることについて検討されたい。

(6) 再生可能エネルギーの利用促進、循環型社会の形成について

- ・ 食品ロスの削減目標を見直し、高い目標を設けたことを評価する。温室効果ガスの削減が想定を外れているものについては要因を分析し、他の目標についても目標値の見直しに取り組みされたい。

(7) 適応策について

- ・ 新たに「真夏日数と熱中症搬送者数の推移」によって熱中症への適応状況を評価するという方向性は良い。さらに県がエアコンの使用を呼びかけた頻度を要素として加えるなど、県の取組の効果が見えるような検討を加えられたい。
- ・ 環境への影響の観点から電力の排出原単位改善が前提となるものの、真夏日の増加と冷房の電力使用量というような視点での評価も検討されたい。
- ・ 去年は国内で児童生徒が部活や体育の授業後に亡くなっており、何度以上になったら部活や体育の授業を行わないという方向性を県が打ち出していくことも必要。
- ・ 単位面積あたりの水稻の収穫量の変化を議論する際に、高温に適した品種の作付面積との相関なども併せて確認されたい。

別 添添

(五十音順、敬称略)

所 属 等	氏 名
日本女子大学 家政学部家政経済学科 教授	天野 晴子
流通経済大学 経済学部 教授	板谷 和也
国立大学法人筑波大学 名誉教授	内山 洋司
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 サステイナブル社会デザインセンター センター長/教授	亀山 康子
国立研究開発法人建築研究所環境研究グループ グループ長	桑沢 保夫
国立大学法人茨城大学 監事	人見 次男
国立大学法人茨城大学 大学院 理工学研究科都市システム工学専攻 教授 (茨城県地域気候変動適応センター長)	横木 裕宗